

マリンビジョンNewsは、サロマ湖地域の1市2町で構成するマリンビジョン協議会が、自然環境と共生した明るい未来を創造する漁村づくりに向けた活動を紹介する広報紙です。

◆ サロマ湖内アマモ分布調査を実施



1m×1mの定量採取調査の様子

サロマ湖養殖漁協（北見市常呂町、阿部俊彦組合長）はサロマ湖内の海草「アマモ」の分布調査を実施しました。調査は繁茂する夏に行われ、衛星画像を収集し、画像処理、藻場分布画像を作成しました。また現地調査では、スキューバ潜水による定量採取調査（1m×1m）を実施し先の画像データと合わせ藻場面積を算出し、過去調査結果と比較しました。アマモは海草の一種で、光合成によって二酸化炭素を吸収し、栄養素からタンパク質や糖分な

どの有機物を作り出すとともに酸素を供給します。食用として利用されることもありますが、サロマ湖では主に生息している魚種の生息場となっています。サロマ湖で養殖できる「湖内養殖許容量」については、2030年に見直しを控えており、この調査を通じて収集した湖内養殖物の各種データや、湖内の生物環境データは、検討委員会が行う「養殖許容量規制方針」を見直す際の検討資料の1つとなります。

◆ 佐呂間小学校で水産学習 漁船にも乗りました！

佐呂間漁協青年部（岩本祐喜青年部長）は水産技術普及指導所と協力し水産学習を行いました。10月6日（月）は佐呂間小学校4年生と5年生を対象にホタテの授業、20日（月）は6年生を対象にサケの授業をそれぞれ行いました。授業ではホタテやサケの漁獲量や漁の方法やロープワークを目の前で、実演して説明しました。座学で学んだあとには実際にホタテを剥いてみたり、サケの三枚おろしやサケフレーク作りのほか、ロープワークの実習も行いました。



普及所の方と一緒に実演をする様子



耳吊りされたホタテを見る佐呂間小4年生

また、4年生15名は実際に漁で使われる漁船に乗船し、ホタテがサロマ湖内で耳吊り養殖されている漁場の見学を行いました。

子供たちは佐呂間町の理解をより深めるため総合的学習「さろま学」を実施しており、植樹祭で大人たちと一緒に木を植えたり、ホタテ貝殻を使った手紙「ホタテガミ」作成、姉妹都市に発送するなど、1年間を通して学習し、郷土愛やシビックプライドにつながるよう取り組んでいます。

◆ 湧別高校生徒会、北大祭でホタテPR



当日販売をした湧別高校生徒会のみなさん

6月7日(土)、湧別高校生徒会は北海道大学で行われた「第67回北大祭」(札幌市)に模擬店を出店し、地元のPR活動を行いました。北海道大学大学院教育学研究院と連携協定を結ぶ湧別町では、湧別高校生が「大学とのつながりを深めたい」と北大祭への出店を提案し、コロナ禍を経て、2022年に実現を果たし、今回で4年連続の参加となりました。

生徒は地域の特産物「ホタテ」の美味しさを広めたいと考え、バター醤油で味付けした焼きホタテやソフト貝柱を販売し、お客様からも好評の声をいただいて、完売となりました。

◆ サロマ湖名産の加工品、大好評！

サロマ湖内で獲れる水産物を使った加工商品が多く販売され、大好評となっています。是非ご賞味ください！

貝柱パウダー(常呂)

乾燥貝柱をパウダー状にした商品、カレーやチャーハンに入れるのはもちろん、料理の隠し味におすすめ



かき珍味3種(湧別)

牡蠣をそれぞれ「塩辛」「ワサビ」「キムチ」で味付けをした一品、化粧箱入りなので贈答用にもオススメです。



サロマ湖北海しまえび醤油(佐呂間)

シマエビを原料に使っただし醤油。甘目の味付けなので刺身や煮物によく合います。



操業の安全と豊漁を祈ります！

発行 サロマ湖地域マリンビジョン協議会

2026.3.18

編集 サロマ湖地域マリンビジョン協議会事務局広報担当

〒093-0502 佐呂間町字永代町3番地の1

佐呂間町経済課水産係

T e l 01587-2-1200 ・ F a x 01587-2-1131

M a i l kankou@town.saroma.hokkaido.jp

